



生き物に配慮した 水路

心あったかニュース

人以外の生物に優しい水路のニュースです。兵庫県丹波篠山市で、生物に優しい工法である農都のまほろば水路を推進。モデルを整備しお披露目を開いた。丹波篠山市は生き物が住みやすい従来の素掘りを推奨しているが、素掘り水路が営農や防災上、支障をきたす場合は、まほろば水路を推奨する。整備した水路の総事業費約364万円は全額、市が補助した。この地区の農地・水・環境保全向上活動の会「の山田俊朗会長は「整備を機に生き物と共生する農村づくりを目指したい」と話していた。まほろば水路は数年かけて他の4組織でも整備される予定。やフリーニュース自然環境に配慮まほろば水路」生き物すみやすく「共生する農村づくりを」丹波新聞より）丹波篠山市長日記にこれらのことが詳しくありましたので、ご紹介します。「この水路は、丹波篠山らしい自然環境に優しい水路です。このうち、コンクリート型ではありませんが、底や側面に穴をあけて穴の部分に土が入り植物が育って自然を

残せる配慮をしたものをヨシキモデル」と命名しました。これは、この水路を考案してくれた谷舗吉紀君の名前をつけたものです。彼は市役所の農業や土木の技術者の第一人者として活躍していました。が、本年2月に突然の病魔におそわれ43歳で急逝しました。彼の遺志を受け継ぎ、ヨシキモデルを市内各地に、全国に普及させたいと願っています。これまでの水路と言えればU字形のコンクリート型ですが、これでは生き物が住めず、カエルなどは落ちるともう登れず、這いあがれず、流されるか死んでいくしかないのです。せめて、今もまだ残っている土のままの水路は、そのままの土水路として残すのが理想なのですが、どうしても防災や営農上必要な場合はこの水路で農業と環境の両立が図れます。今後、特に排水路ではできるだけこのヨシキモデルを活用できればと考えています。」

水路のタイプ ○穴あきタイプ（落ち込んだカエルがはい出せ、魚たちも暮らせる水路。維持管理作業負担も軽減できる）○片側土タイプ（草が産卵場所や隠れ家となるように、片側だけをコンクリートにして、土と草を残す）○水田魚道（フナ、ドジョウなど、田んぼで産卵したい魚が水路から上がれる道がある）

○のぼろタイプ（コンクリート水路に落ちた、カエルや蛇たちが、登れるように突起をつくる）

まほろばとは、古事記のなかで歌われた言葉で、素晴らしいところ、住みやすいところという意味だそうです。自然豊かな田園風景が魅力である丹波篠山では、過去から大切にしていた水路を、環境に配慮した形で、未来に引き継ぎましょう。

編集後記

自分たちの町の魅力がなんであるのか？それは過去からうけつがれたものであるから、いい形で未来につなごう。

まほろばは、そういう気持ちのところにあるのだと思います。田んぼは、自然ととも近いものなのだと思います。大切にしたいですね。